

男鹿地区統合校（仮称）整備事業
事業条件書

秋田県

令和8年9月4日

目次

1. 学校統合再編の基本的な考え方	1
2. 事業対象の概要	2
2.1. 事業概要	2
2.2. 事業対象地の概要	3
2.3. 事業対象施設の概要	4
3. 施設・土地利用計画	6
3.1. 本施設整備の基本方針	6
4. 施工条件について	7
4.1. 事業スケジュール	7
4.2. ローリング計画について	7
4.3. 施工ヤード・搬入車両条件について	9
5. 施設整備内容について	11
5.1. 工事項目	11
5.2. 実習教室の整備（転用・増築）	11
5.3. 既存施設の改修工事内容	17
5.4. 生徒数	31

添付資料 1 地積測量図

添付資料 2 地質調査結果

添付資料 3 既存施設図面

添付資料 4 既存施設改修図面

添付資料 5 工事項目内訳書

1. 学校統合再編の基本的な考え方

秋田県においては、人口減少や少子高齢化に伴う生徒数の減少と、県教育財政の逼迫が課題となっており、これらへの迅速な対応が必要となっている。

このため、「男鹿地区統合校（仮称）基本構想」に示す『男鹿の風土を教育資源として生かし、これからの時代を生き抜く力と高い志を育み、自己の確立を目指すとともに、社会や地域に貢献できる人間を育成する。』という基本理念に基づき、男鹿地区統合校（仮称）（以下、「本施設」という。）において、教育内容及び教育活動を十分に展開でき、かつ、生徒及び職員が安全で快適に学校生活を送ることができるよう、男鹿海洋高等学校及び男鹿工業高等学校の2校を統合し、増築・改修を行うこととする。

なお、増築・改修にあたっては、専門性の高いカリキュラムを有している2校を統合して教育を継続することが最重要課題であり、「男鹿地区統合校（仮称）基本構想」に示す改修内容を前提として実施する。

2. 事業対象の概要

2.1. 事業概要

(1) 統合対象校

男鹿海洋高等学校、男鹿工業高等学校

統合再編する2校の位置図を以下に示す。



出典：Copyright©NTT インフラネット株式会社 All Rights Reserved.

図1 対象施設の位置

(2) 事業対象地

男鹿海洋高等学校敷地

(3) 開校時期

令和11年4月1日（予定）

(4) 学校規模

1学年4学級、3学年計12学級

(5) 基本理念

男鹿の風土を教育資源として生かし、これからの時代を生き抜く力と高い志を育み、自己の確立を目指すとともに、社会や地域に貢献できる人間を育成する。

2.2. 事業対象地の概要

事業対象地である秋田県立男鹿海洋高等学校の位置図を示す。



出典：Copyright©NTT インフラネット株式会社 All Rights Reserved.

図2 男鹿海洋高等学校の位置

表1 男鹿海洋高等学校の概要

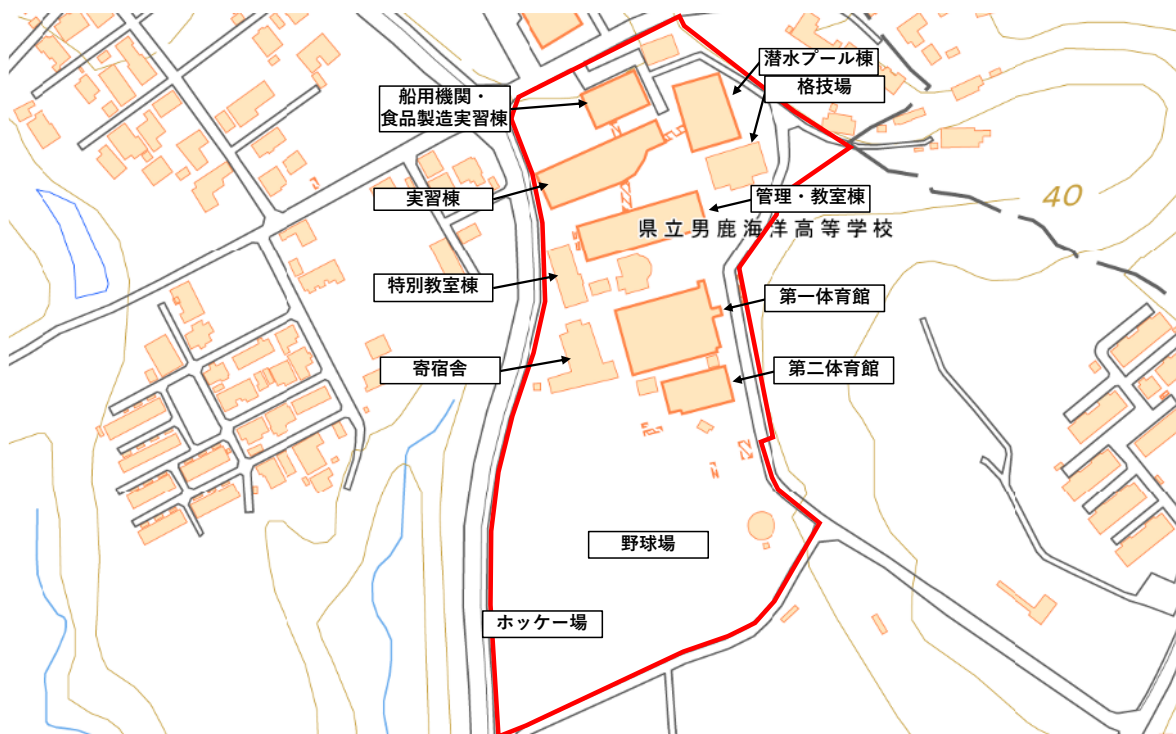
所在地	秋田県男鹿市船川港南平沢字大畑台 42 番地
創立	平成 16 年 4 月 1 日
敷地面積	35,407 m ²
建物面積	12,734 m ²
学校規模	普通科 2 クラス、海洋科 3 クラス、食品科学科 3 クラス 計 8 クラス
用途区域	第一種中高層住居専用地域
建蔽率/容積率	60%/200%
道路制限	1.25/ 1
接続道路	芦沢増川線 幅員：6.8-7.0m 南ヶ丘線 幅員：10.7-11.2m

2.3. 事業対象施設の概要

事業対象地である男鹿海洋高等学校の校舎や体育館等の各棟の概要と各棟平面図を以下に示す。事業対象地及び既存施設の詳細は、「添付資料 1 地積測量図」「添付資料 2 地質調査結果」「添付資料 3 既存施設図面」及び「添付資料 4 既存施設改修図面」を参照すること。

表 2 各棟の概要

棟	構造	階	竣工年度	延床面積(㎡)
管理・教室棟	鉄筋コンクリート造	4	昭和 50 年度	4,603
特別教室棟	木造	2	平成 15 年度	533
実習棟	鉄筋コンクリート造	2	平成 11 年度	2,370
潜水プール棟	鉄筋コンクリート造	2	平成 11 年度	1,215
第一体育館	鉄骨造	1	平成 7 年度	1,490
第二体育館	鉄骨造	1	平成 15 年度	509
船用機関・食品製造実習棟	鉄骨造	1	平成 11 年度	569
寄宿舍	鉄骨造	2	昭和 53 年度	727
格技場	木造	1	平成 2 年度	350
その他（艇庫・部室等）				368



出典：男鹿地区統合校（仮称）基本構想を基に作成

図 3 男鹿海洋高等学校の概要図

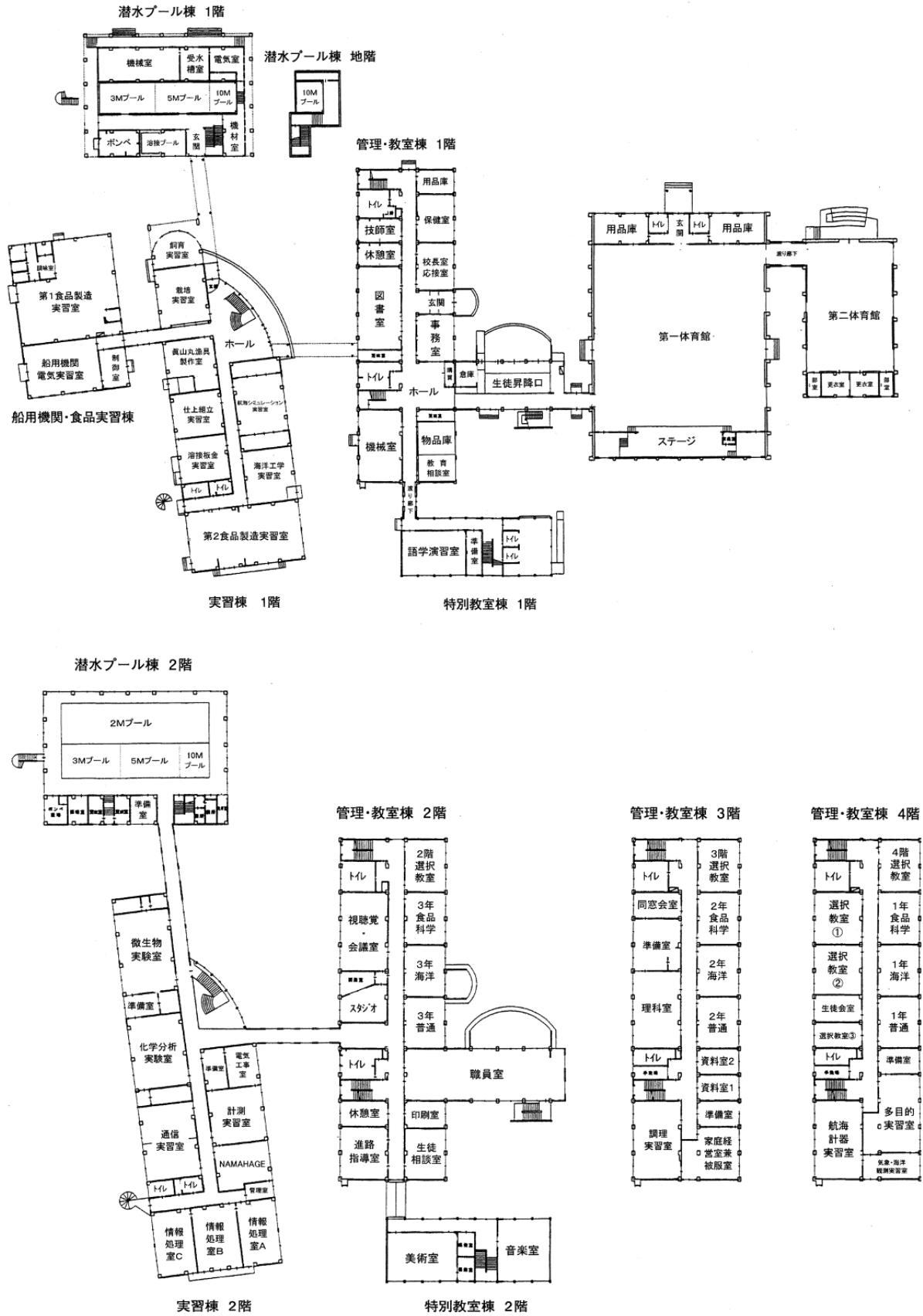


図 4 男鹿海洋高等学校 各棟平面図

3. 施設・土地利用計画

3.1. 本施設整備の基本方針

- (1) 基本理念に基づき、男鹿地区統合校(仮称)において教育内容及び教育活動を十分に展開でき、かつ、生徒及び職員が安全で快適に学校生活を送ることができるよう施設の増築・改修を行う。
- (2) 男鹿地区統合校(仮称)は、現男鹿海洋高等学校の施設及び土地を利用する。
 - ① 校舎は、現状の配置を基本として一部教室を転用して継続利用する。ただし、内装の改修や設備改修、バリアフリーに対応するためのエレベータ新設などを実施する。
 - ② 水産系の教育課程実施に必要な実習教室は実習棟を継続利用するが、工業系の教育課程実施に必要な実習教室は、現実習教室の一部転用に加えて、不足する実習教室は実習棟に隣接して増築する。
 - ③ 体育施設については、第一・第二体育館は既存利用し、格技場は改修して継続利用する。
 - ④ 一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォームが主催する地域みらい留学へ参加し、全国から生徒を受け入れするため、現寄宿舍を改修し、男女とも利用可能な寄宿舍を整備する。
 - ⑤ 屋外運動施設は、現在の野球場を利用する。なお、部活動の競技種により屋外運動施設が不足する場合は、近隣施設の借用について男鹿市と協議していく。
- (3) 男鹿地区統合校(仮称)の整備については、「産業イノベーション人材育成等に資する高等学校等教育改革促進事業」の交付金のほか、「公共施設等適正管理推進事業債(集約化・複合化事業)」を活用することとし、統合校の開校に伴い男鹿工業高等学校は廃止する。
 - ① 男鹿工業高等学校の施設・土地利用を検討するにあたっては、同校の立地条件に鑑みて、男鹿市のまちづくり方針に配慮する。
 - ② 統合校整備計画と並行して男鹿工業高等学校の跡地利用について検討することとし、施設及び土地を男鹿市が公共利用する可能性について協議を進める。
 - ③ 男鹿市の公共利用の可能性がない場合は、施設の除却及び民間等への売却を検討する。
 - ④ 男鹿工業高等学校の廃止後の方針は、男鹿地区統合校(仮称)の整備に着手する段階までに決定することを目指す。(概ね令和9年度中)

4. 施工条件について

4.1. 事業スケジュール

本事業における事業期間は、事業契約の締結日から令和 12 年 3 月 31 日までとする。

ただし、男鹿地区統合校（仮称）は、令和 11 年 4 月 1 日に開校を予定であるため、以下の工期までに検査を完了し、引渡しを行うこと。外部仕上げ等の学校運営に支障を来さない範囲の工事について、開校後に施工を行うことを可とする。

- ・開校に必要な工事：令和 11 年 3 月 10 日まで
（引渡し後、開校までに県で備品等の搬入・設置を行う）
- ・外部仕上等の学校運営に支障を来さない範囲の工事：令和 12 年 3 月 31 日まで

4.2. ローリング計画について

本事業は、現男鹿海洋高等学校の学校運営を継続しながら工事を行う「居ながら施工」を前提とする。以下の条件等を考慮の上、施工を行うこと。

- **ローリング計画の策定**
 - 生徒の学習環境や安全を確保するため、工区や階層ごとに段階的に改修を進めるローリング計画を策定すること。
- **仮教室等の利用により施工可能な範囲**
 - 工事対象となる教室の授業を一時的に代替教室へ振り替える仮教室等の使用により、下表に示すとおり施工可能とする。

表 3 施工可能範囲の条件

施工対象教室・階層		施工中の代替教室等 仮使用場所	施工可能な日程
管理教室棟	4 階	3～2 階を仮使用	令和 10 年 4 月～5 月
	3 階	4、2 階を仮使用	令和 10 年 6 月～7 月
	2 階教室	4～3 階を仮使用	令和 10 年 8 月～9 月
寄宿舍「北辰寮」	2 階	1 階を仮使用	令和 10 年 4 月～6 月
	1 階	2 階を仮使用	令和 10 年 7 月～9 月

※既存実習棟の 1 階及び 2 階は「風と海の学校」が入居しているため、「風と海の学校」の開校日以外の日程で施工すること。ただし、開校日は未定のため、施工時期については、県と協議によるものとする。

- **施工可能時間等**

- 施工は原則、学校職員が勤務している以下の時間帯とする。

施工可能時間帯：8時15分～16時45分（終了時間の延長が必要な場合は、都度、学校と都度協議するものとする。）

- 以下の期間は長期休暇期間となり、職員が不在となる閉庁期間を除いて、表3に示す範囲に限らず、施工可能である。ただし、職員が常駐する職員室等については、協議により施工可能とする。

表 4 休暇期間の施工条件

内容		日程
長期休暇※	夏季休業日	7/22～8/20 閉庁期間（施工不可）：8/11～8/16
	冬季休業日	12/22～1/13 閉庁期間（施工不可）：12/29～1/3
	春季休業日	4/1～4/4、3/22～3/31
その他休暇	学校創立記念日	5/18
	土曜・日曜・祝日	協議により施工可能

※ただし、新たに建設する工業系実習棟の施工等、学校の施設管理を伴わない区域にあってはこの限りではない。

- **安全区画と作業環境**

- 工事エリアと学校使用エリアを養生・仮囲い等で徹底的に分離し、騒音・振動への配慮や、生徒の避難動線の確保を行うこと。
- 騒音が発生する作業は、平日夕方、休日、または長期休業期間（夏休み等）に重点的に配置すること。

4.3. 施工ヤード・搬入車両条件について

本事業は、現男鹿海洋高等学校の学校運営を継続しながら工事を行う「居ながら施工」を前提とするため、以下の施工ヤード、搬入車両ルート等を踏まえた施工を行うこと。施工ヤード、現場管理事務所、車両出入口等の想定位置を図5に示す。

- **敷地内施工ヤードの確保**

- 事業対象地（敷地面積 35,407 m²）内の屋外運動場（野球場・ホッケー場周辺）や余剰スペースを活用し、仮設事務所、資機材集積場、作業員駐車場等の施工ヤードを設置すること。
- 撤去物を回収する廃材コンテナ置き場、屋内に仮置き場が必要となる場合は発注者及び学校側と協議の上、位置を検討すること
- 現場管理事務所は図5に示す位置を基本とする。スペースが不足する場合は発注者及び学校側と協議の上、位置を検討する。

- **接続道路・搬入ルート**

- 芦沢増川線（幅員 6.8～7.0 m）
- 南ヶ丘線（幅員 10.7～11.2 m）

- **搬入車両ルートにおける安全対策**

- 居ながら工事となることから、生徒や職員等の安全性を確保する対策を講じること。
- 大型工事車両の搬入時は、周辺通学路および生徒の登下校時間帯（朝・夕）の通行制限や徐行を徹底すること。
- 校門付近および敷地内搬入交差点には誘導員を配置し、生徒動線と工事車両動線の平面交差・接触を回避する安全対策を講じること。
- メイン入口側（生徒昇降口、来客玄関側）の敷地入口は一般車両用に利用を制限し、裏口3か所を工事車両入口とする。
- 工事車両出入口については、「風と海の学校」（訓練生）関係者車両の出入りや、旧船川南小学校との往来があるため、誘導員の配置やゲート等で通行路を確保し、安全に配慮すること。
- メイン入口周辺は工事車両通行制限エリアとし、基本的に工事車両を進入させないようにする。ただし、特別教室棟、寄宿舎の工事期間中はやむを得ず工事車両が通行する可能性が想定されるため、安全に十分配慮する。



図5 施工ヤード・搬入車両ルート

5. 施設整備内容について

5.1. 工事項目

本事業は、添付資料 5 工事項目内訳書に示す工事項目の実施を予定している。

5.2. 実習教室の整備（転用・増築）

5.2.1. 現有施設と統合後の利用計画

本事業における整備内容として、現況の利用状況と統合後の利用計画を以下に示す。

表 5 内の★付の外部仕上げ等の学校運営に支障を来さない範囲の工事について、開校後に施工を行うことを可とする。

表 5 現有施設と統合後の利用計画

現在利用状況					統合後の利用計画	
棟	区分	室等名	階	室数	利用計画	対応
管理・教室棟	普通教室	教室	2	4	3 年普通教室(4)	内装改修等
			3	4	2 年普通教室(4)	内装改修等
			4	4	1 年普通教室(4)	内装改修等
	特別教室	図書室	1	1	図書室	既存利用
		家庭経営室	3	1	家庭経営室	内装改修等
		準備室(家庭)	3	1	準備室(家庭)	既存利用
		調理実習室	3	1	調理実習室	既存利用
		理科室	3	1	理科室	内装改修等
		準備室(理科)	3	1	準備室(理科)	内装改修等
		多目的実習室	4	1	多目的実習室	既存利用
		準備室(多目的)	4	1	準備室(多目的)	既存利用
		気象・海洋観測実習室	4	1	気象・海洋観測実習室	既存利用
		航海計器実習室	4	1	航海計器実習室	内装改修等
		選択教室①②	4	2	工業系実習諸室①②	既存利用
		選択教室③	4	1	1 年使用教室	内装改修等
		生徒会室	4	1	生徒会室	内装改修等
	管理室	校長応接室	1	1	校長応接室	空調設備更新
		事務室	1	1	事務室	既存利用
		保健室	1	1	保健室	内装改修等
		教育相談室	1	1	教育相談室	既存利用
		用具庫	1	1	用具庫	既存利用
		倉庫	1	1	倉庫	既存利用
		物品庫	1	1	物品庫	既存利用
		更衣室	1	2	更衣室	既存利用

現在利用状況					統合後の利用計画	
棟	区分	室等名	階	室数	利用計画	対応
		トイレ(多目的)	1	1	トイレ(多目的)	衛生器具更新
		トイレ	1	1	トイレ	内装改修等
		技師室	1	1	技師室	内装改修等
		機械室	1	1	機械室	蒸気ボイラ更新
		休憩室(女子)	1	1	休憩室(女子)	既存利用
		職員室	2	1	職員室	建具等更新
		進路指導室	2	1	進路指導室	空調設備更新
		生徒相談室	2	1	生徒相談室	既存利用
		視聴覚・会議室	2	1	視聴覚・会議室	既存利用
		放送室	2	1	放送室	既存利用
		トイレ	2	1	トイレ	衛生器具更新
		トイレ(男女)	2	1	トイレ(男女)	内装改修等
		スタジオ	2	1	スタジオ	既存利用
		休憩室	2	1	休憩室	既存利用
		印刷室	2	1	印刷室	既存利用
		同窓会室	3	1	同窓会室	既存利用
		トイレ(女子)	3	1	トイレ(女子)	衛生器具更新
		トイレ(男子)	3	1	トイレ(男子)	内装改修等
		手洗場	3	1	手洗場	内装改修等
		資料室	3	2	資料室	内装改修等
		トイレ(女子)	4	1	トイレ(女子)	衛生器具更新
		トイレ(男子)	4	1	トイレ(男子)	内装改修等
		手洗場	4	1	手洗場	内装改修等
職員室棟	外部	職員室棟	2	—	職員室棟	外部改修★
実習棟	実習室	航海シミュレーション	1	1	※風と海の学校	空調設備更新
		海洋工学実習室	1	1	海洋工学実習室	空調設備更新
		溶接板金実習室	1	1	溶接板金実習室	空調設備更新
		仕上組立実習室	1	1	仕上組立実習室	空調設備更新
		眞山丸漁具製作室	1	1	眞山丸漁具製作室	空調設備更新
		栽培実習室	1	1	栽培実習室	空調設備更新
		飼育実習室	1	1	飼育実習室	空調設備更新
		船用機関電気実習室	1	1	船用機関電気実習室	空調設備更新
		制御室	1	1	制御室	空調設備更新
		トイレ(男女)	1	2	トイレ(男女)	既存利用

現在利用状況					統合後の利用計画	
棟	区分	室等名	階	室数	利用計画	対応
		食品製造実習室	1	2	食品製造実習室	空調設備更新
		調味室	1	1	調味室	空調設備更新
		情報処理室	2	3	情報処理室	空調設備更新
		管理室	2	1	管理室	空調設備更新
		トイレ(男女)	2	2	トイレ(男女)	既存利用
		NAMAHAGE	2	1	※風と海の学校	継続 空調設備更
		計測実習室	2	1	計測実習室	空調設備更新
		準備室(計測)	2	1	準備室(計測)	空調設備更新
		電気工事室	2	1	電気工事室	空調設備更新
		通信実習室	2	1	※風と海の学校	継続(空き時間は
		化学分析実習室	2	1	化学分析実習室	空調設備更新
		準備室(化学・微生物)	2	1	準備室(化学・微生物)	空調設備更新
		微生物実験室	2	1	微生物実験室	空調設備更新
特別教室棟	特別教室	語学演習室	1	1	工業系3DCAD室	内装改修等
		準備室(語学演習)	1	1	工業系準備室	空調設備更新
		トイレ(男女)	1	2	トイレ(男女)	既存利用
		音楽室	2	1	音楽室	空調設備更新
		美術室	2	1	工業系実習諸室③	空調設備更新
		準備室(美術)	2	2	工業系準備室	空調設備更新
体育館棟	体育館	第1体育館	1	1	第一体育館	既存利用
		放送室	1	1	放送室	既存利用
		用具庫	1	2	用具庫	既存利用
		トイレ(男女)	1	2	トイレ(男女)	既存利用
		第2体育館	1	1	第二体育館	既存利用
		部室	1	2	部室	既存利用
		更衣室	1	2	更衣室	既存利用
寄宿舍	寄宿舍	食堂	1	1	食堂	女子生徒が宿泊 できるよう居室、 浴室等の改修
		厨房	1	1	厨房	
		浴室	1	1	男子浴室	
		洗濯室	1	1	男子洗濯室、洗面	
		舎監室	2	1	男子浴室、洗濯室、洗面	その他内部、設備 改修
			1	1	舎監室	
			2	1	舎監室	
			2	1	男子宿泊室	
			1	4	男子宿泊室	外部改修★

現在利用状況					統合後の利用計画	
棟	区分	室等名	階	室数	利用計画	対応
		宿泊室	1	2	女子宿泊室	
			1	1	女子浴室、洗濯室、洗面	
		大広間	2	2	男子宿泊室(6室)	
実習施設		潜水プール	2	—	潜水プール	既存利用
格技場		格技場	1	—	格技場	外部改修等★
相撲場		相撲場	1	—	相撲場	既存利用
敷地外		艇庫	1	—	艇庫	既存利用

5.2.2. 新たに設ける工業系学科の履修に必要な実習室

本事業において整備する工業系学科の履修に必要な実習室を以下に示す。増築する工業系実習棟に設けるとともに、一部実習室については、既存の「管理・教室棟」及び「特別教室棟」の諸室を転用するものとする。

表 6 工業系学科の履修に必要な実習室（工業系実習棟に設ける諸室）

棟	区分	室等名	階	室数	必要面積	備考
工業系 実習棟 (増築)	実習室	機械実習室	1	1	700 m ²	
		準備室	1	1	60 m ²	
		工具・材料室	1	1	30 m ²	
		機器電力実習室	2	1	120 m ²	
		高電圧実習室	2	1	120 m ²	
		電気電子実習室	2	1	500 m ²	
	廊下等共用スペース		—	—	100 m ²	
			面積合計		1,630 m ²	

表 7 工業系学科の履修に必要な実習室（既存教室を転用する諸室）

棟	区分	室等名	階	室数	備考
管理・教 室棟	実習室	工業系実習諸室①	—	1	選択教室を転用
		工業系実習諸室②	—	1	選択教室を転用
特別教室 棟	実習室	3DCAD室	—	1	語学学習室を転用
		工業系実習諸室③	—	1	美術室を転用

5.2.3. 増築する工業系実習室に必要な性能

本事業において、増築する工業系実習室に共通して必要な性能を以下に示す。

表 8 増築する実習室に必要な性能（共通事項）

(1) 情報ネットワーク(W i - F i)環境を整備する。 既存校舎のG I G Aスクールネットワークを延長し、各実習室でタブレット端末をW i - F i 接続可能とする。 (2) 実習室に配置予定の設備が使用できる電力環境を整備する。 (3) 既存実習棟と往来可能な屋外通路で接続する。屋外通路には屋根を設ける。

表 9 増築する実習室に必要な性能（各室に求める事項）

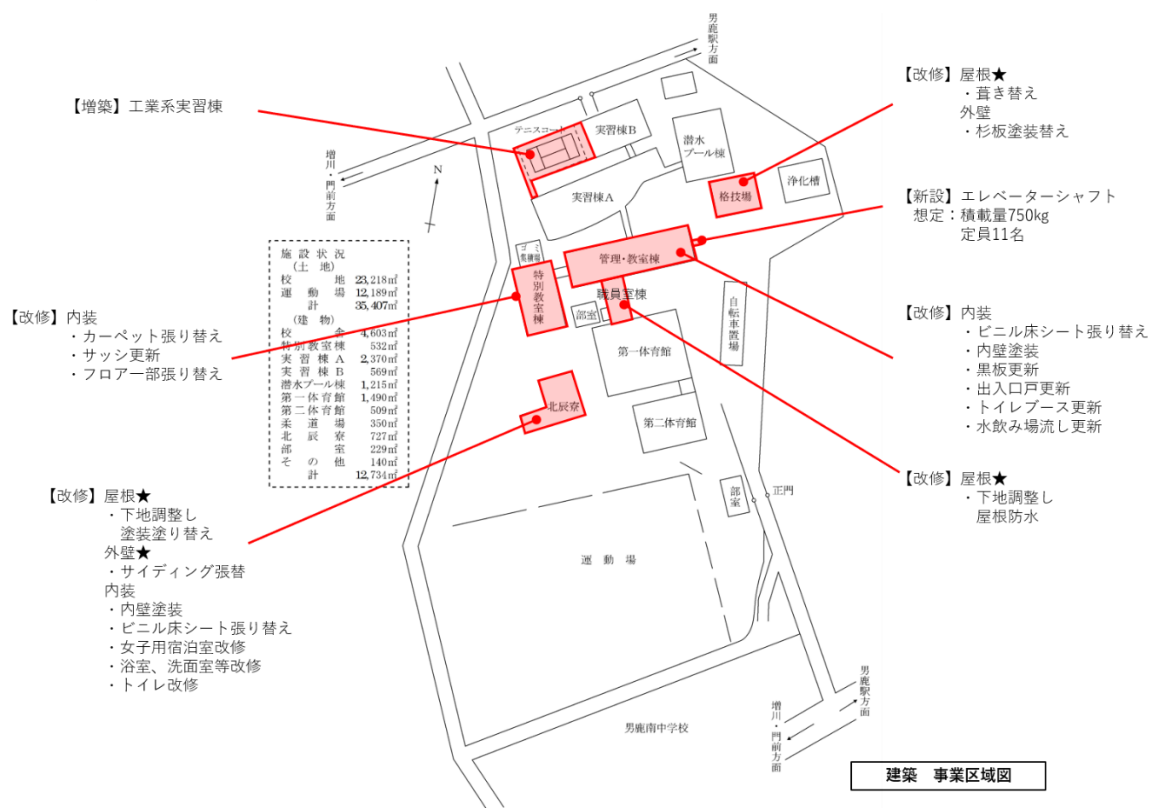
室等名	面積	必要な性能等	配置予定設備・大型備品
機械実習室	700 m ²	・各種切削加工を行う他、やすりがけ、タップダイスによるねじ切り、けがき、手仕上げ実習を行う。また、工作実習や計測実習の機能も兼ね備えたものとする。 ・重量のある設備を配置するため、床面の耐荷重に留意する。 ・各種工具鋼材保管スペースを設ける。 ・シャッター等外部からアクセスできる開口部 3 m 程度の大きな扉を設置する。 ・水道設備(手洗い場、温水付)を設置する。 ・冷暖房、換気扇、ブラインドを設置する。 ・据え付け棚(壁側)を設ける。	・普通旋盤 6 台を設置 ・立てフライス盤 2 台を設置 ・グラインダ 2 台を設置 ・卓上ボール盤 2 台を設置 ・直立ボール盤 1 台を設置 ・帯鋸盤 2 台(バンドソー 1 台、コンタマシン 1 台)を設置 ・高速切断機 2 台を設置 ・作業台 4 台を設置 ・定盤 2 台を設置 ・移動式テーブル 1 5 台、折りたたみ椅子 3 5 脚を設置 ・黒板を 2 台据え付け ・可動式ホワイトボード 1 台を設置 ・万力用テーブル 1 台(万力を 4 個設置)を設置
準備室	60 m ²	・実習の準備を行う。 ・冷暖房、換気扇、ブラインドを設置する。	・作業台、戸棚を設置 ・プリンターを設置
工具・材料室	30 m ²	・各種工具・材料を安全に保管する。 ・準備室の隣に設置し、往来可能にする。	・収納棚の設置
機器電力実習室	120 m ²	・直流発電機(据付)、三相誘導電動機(据付)、三相同機器、変圧器等の電気機器に関する実習を行う。 ・負荷装置を用いた電力測定実習を行う。 ・メガ(絶縁抵抗計)による絶縁抵抗の測定を行う。 ・三相電源が必要である。 ・重量のある設備を配置するため、床面の耐荷重に留意する。 ・講義スペースを設け、黒板を据え付けする。 ・実習室内から入室する。 ・水道設備(手洗い場、温水付)を設置	・直流分巻発電機 1 台 ・半導体整流装置 1 台 ・三相誘導電動機 1 台 ・三相同機器 1 台 ・負荷装置 1 台 ・単相変圧器 1 台 ・三相誘導電圧調整器 1 台 ・移動式机 4 台、折りたたみ椅子 8 脚 ・教師用机、椅子 ・メータ等保管棚

室等名	面積	必要な性能等	配置予定設備・大型備品
		・ する。 ・ 冷暖房、換気扇、ブラインドを設置する。	
高電圧実習室	120 m ²	・ 高電圧実習装置による絶縁耐力試験を行う。 ・ 光度計による測定実習を行う。 ・ 天井を教室より高めに設置する。 ・ 講義スペースを設け、黒板を据え付けする。 ・ 水道設備(手洗い場、温水付)を設置する。 ・ 冷暖房、換気扇、ブラインドを設置する。 ・ 機器電力実習室と高電圧実習室の間に通路を設け非常階段へつなげる。(緊急時の避難口)	・ 高電圧発生装置 1 式 ・ 試験用変圧器 1 式 ・ 球間隙 ・ 受電設備 ・ 移動式机 4 台、折りたたみ椅子 8 脚 ・ 教師用机、椅子 ・ メータ等保管棚
電気電子実習室	500 m ²	・ 電気の基礎実習(オームの法則、抵抗の直並列回路、分流器、倍率器等)を行う。 ・ ブリッジ回路の実習を行う。 ・ シーケンス制御の実習を行う。 ・ 波形観測の実習を行う。 ・ コンピュータ制御の実習を行う。 ・ 電子の基礎実習(ダイオードの特性、整流回路、増幅回路、波形整形回路等)の実習を行う。 ・ 論理回路の実習を行う。 ・ 製作実習を行う。 ・ 電気工事实習を行う。 ・ 3つの部屋に仕切るパーテーションが必要。 ・ 水道設備(手洗い場、温水付)を設置する。 ・ 冷暖房、換気扇、ブラインドを設置する。	・ ダイヤル抵抗器、すべり抵抗器、各種メータ ・ 直流安定化電源 6 台 ・ ホイットストンブリッジ ・ シーケンス実習装置 ・ デジタルオシロスコープ 4 台 ・ 発信器 4 台 ・ ノート型 P C 6 台 ・ I C トレーナー 8 台 ・ 電気工事部品棚 ・ 電気工事工具棚 ・ 電子部品棚 ・ 移動式ホワイトボード 3 台 ・ 移動式机 1 2 台、折りたたみ椅子 2 4 脚 ・ 教師用机 3、椅子 3 ・ メータ等保管庫

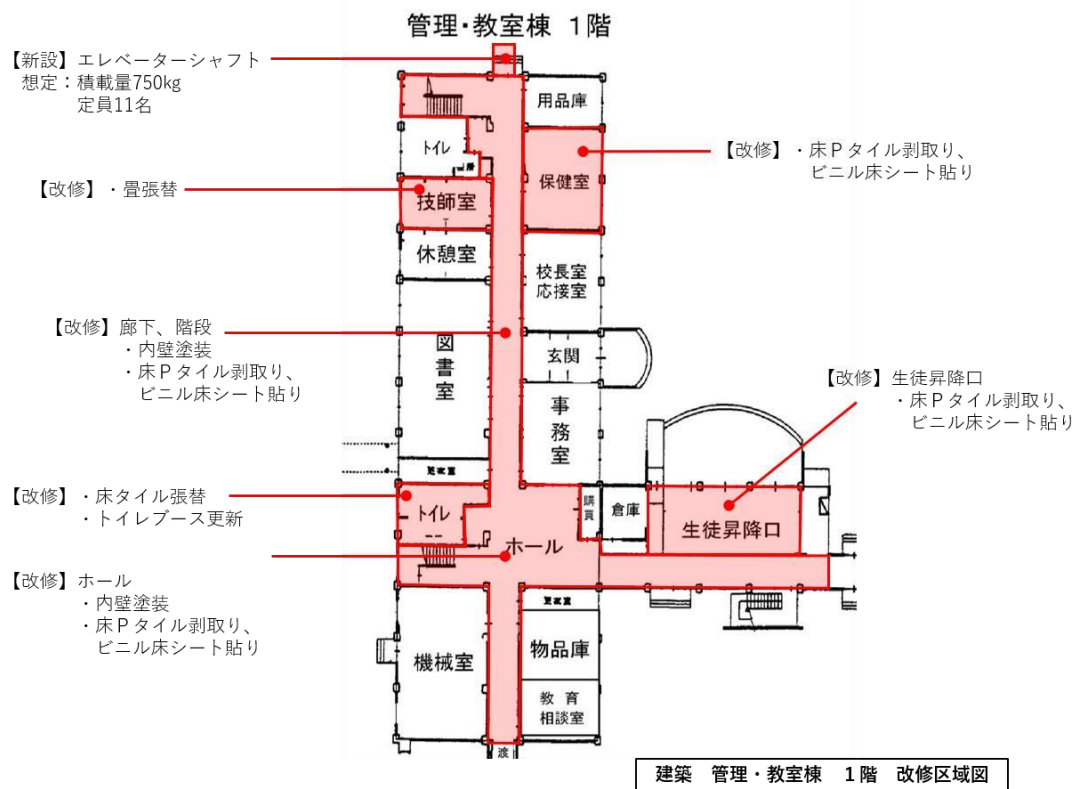
5.3. 既存施設の改修工事内容

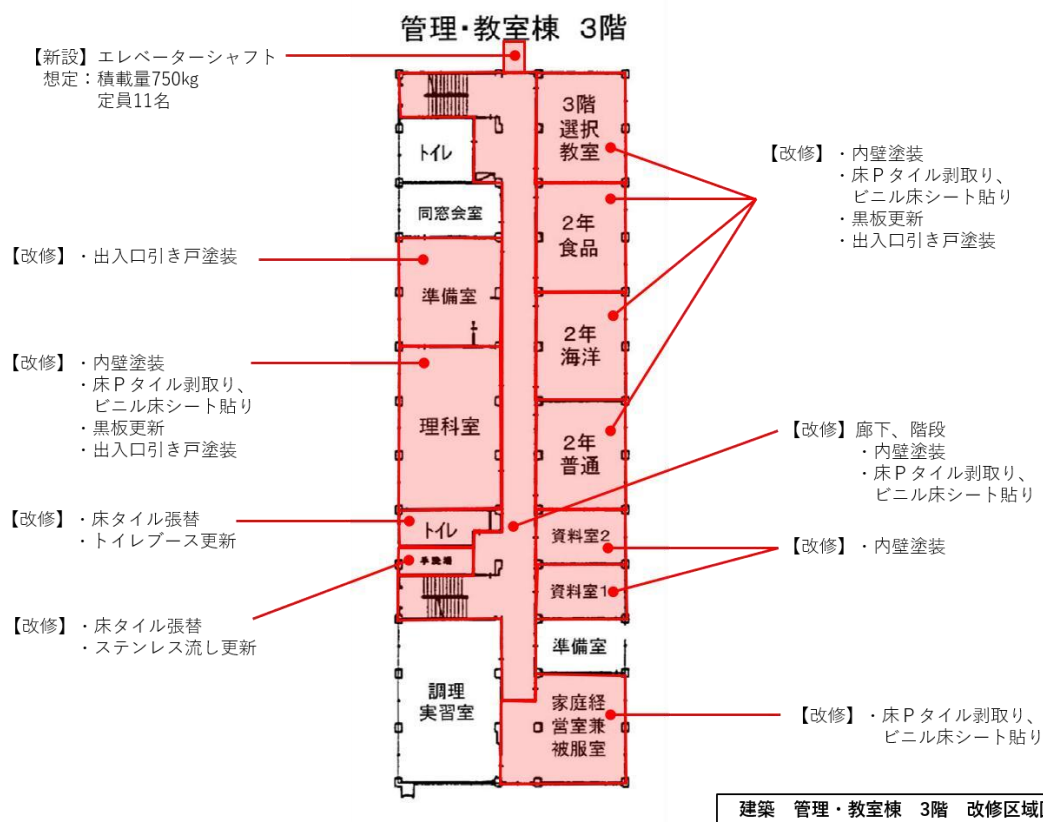
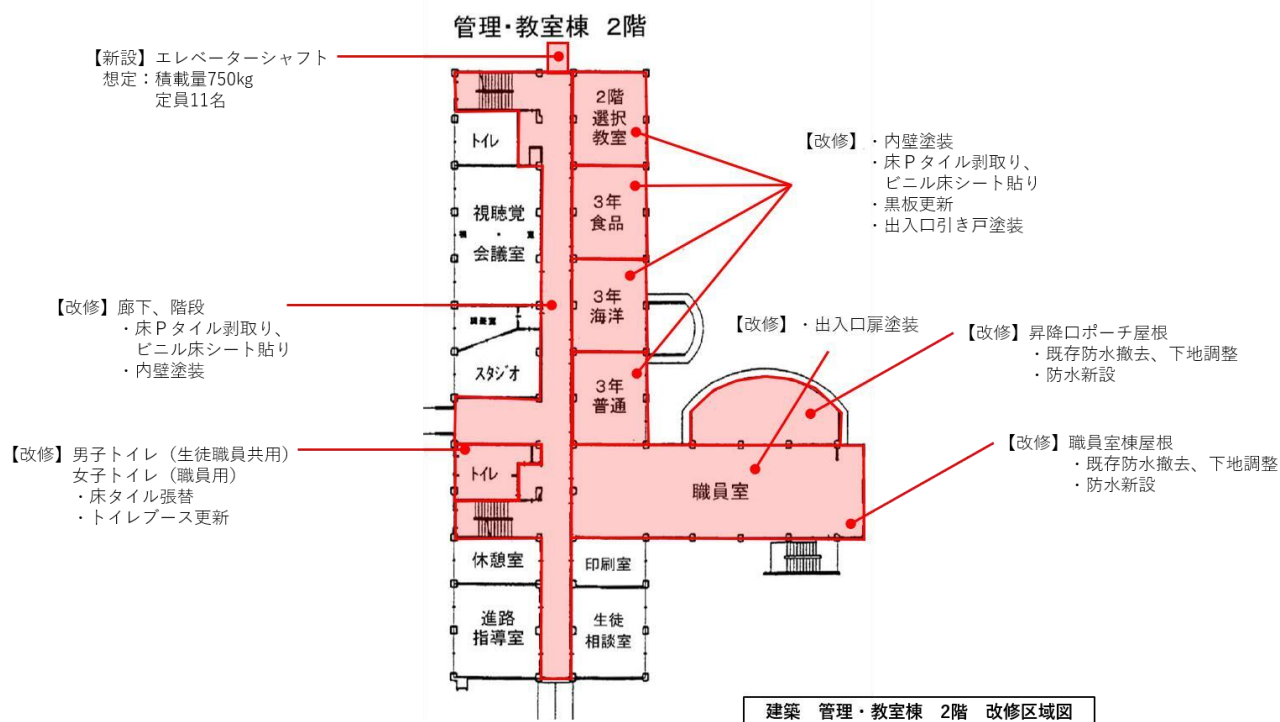
本事業の改修対象となる建築工事、電気設備工事、機械設備工事を以下に図示する。

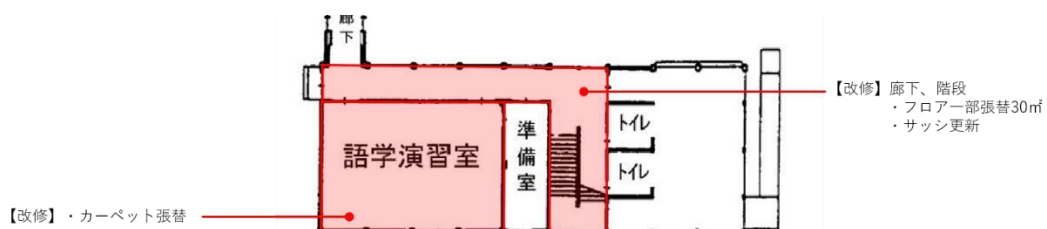
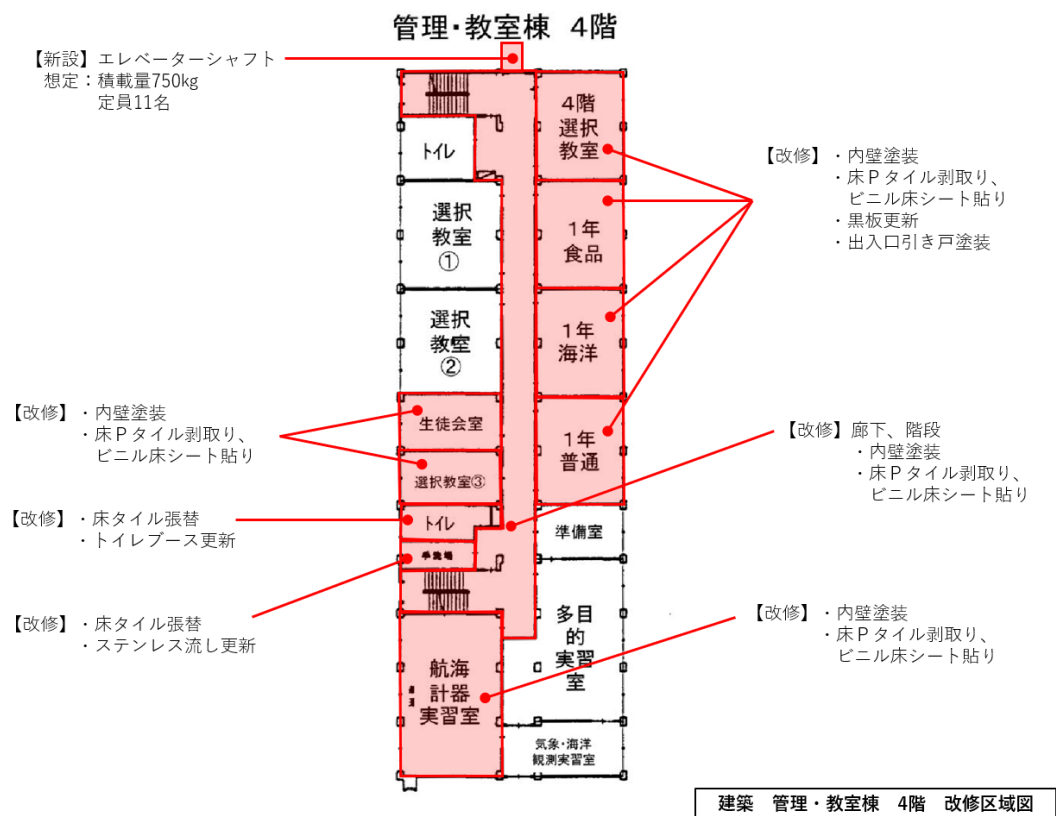
5.3.1. 建築



★：外部仕上げ等の学校運営に支障を来さない範囲の工事について、開校後に施工を行うことを可とする。







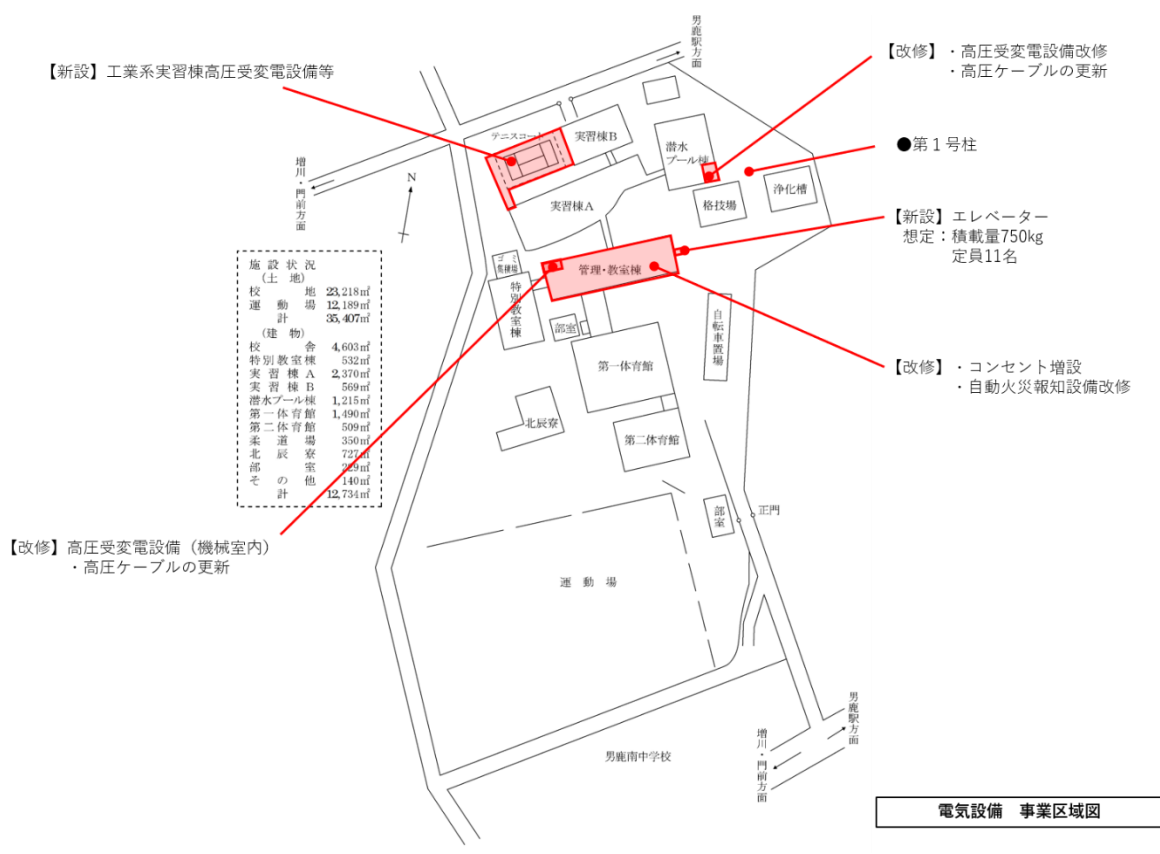
特別教室棟 1階



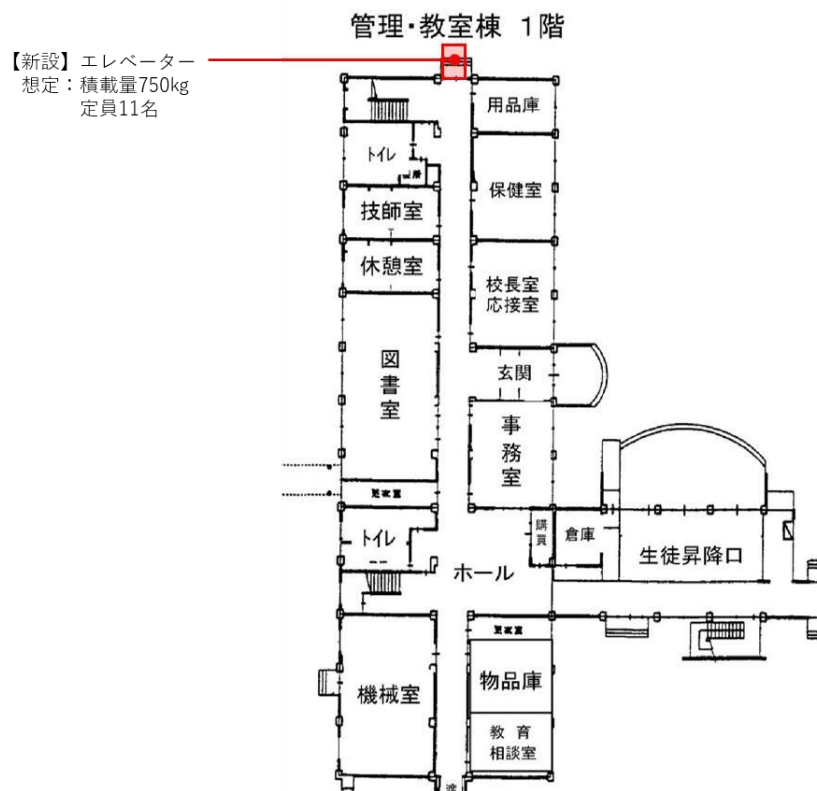
特別教室棟 2階

建築 特別教室棟 改修区域図

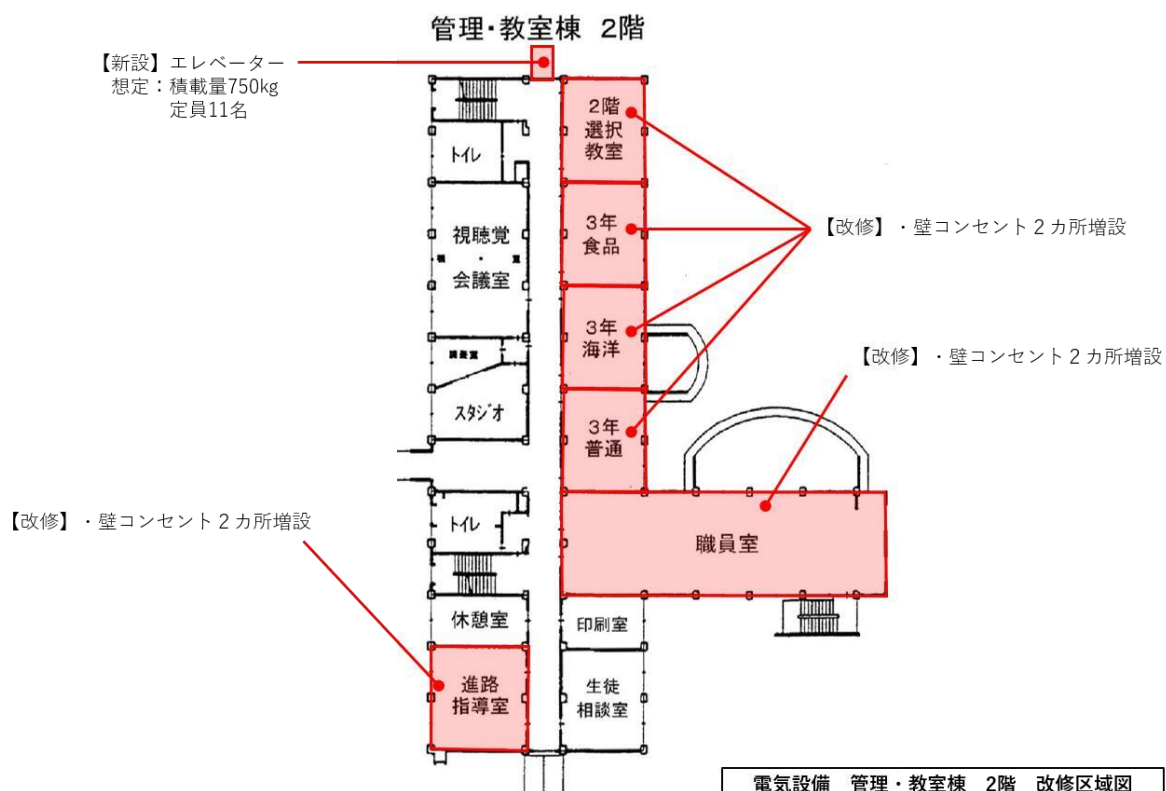
5.3.2. 電気設備



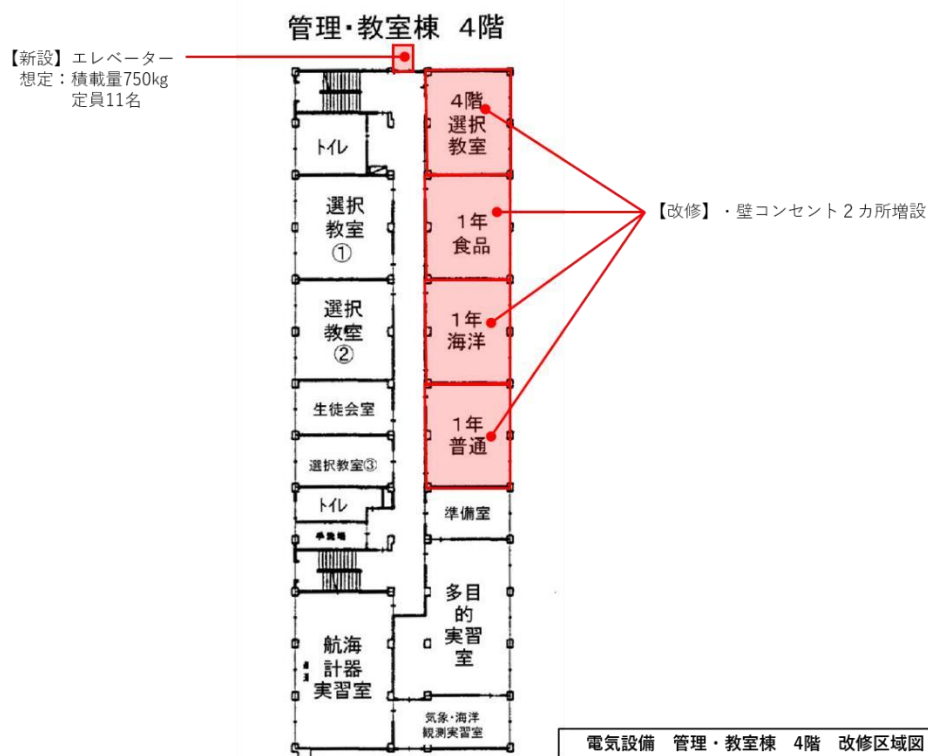
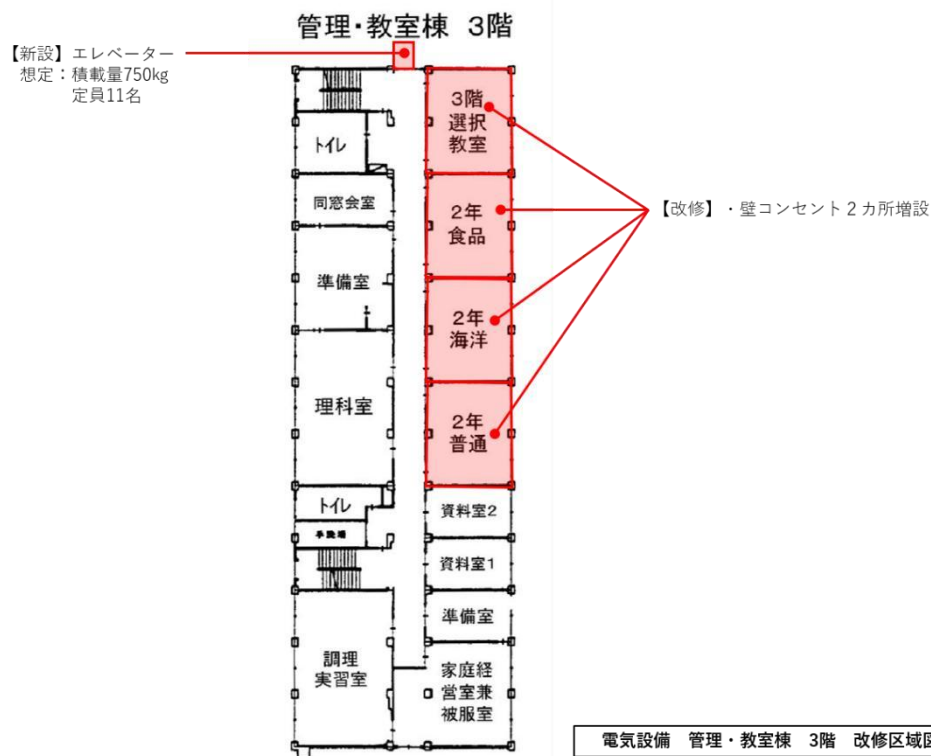
①工業系実習棟が新設されることにより、対応できる高圧受変電設備に改修
②既存キュービクル改修により対応が難しい場合はキュービクルを新設することも認める
③工業系実習棟については、第三種電気主任技術者の認定校を想定



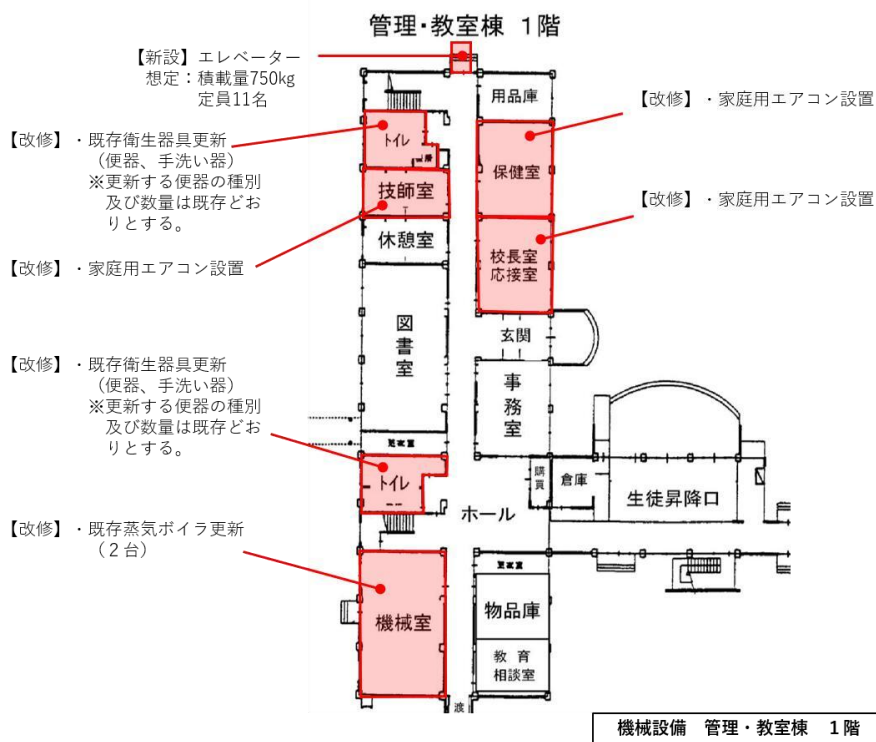
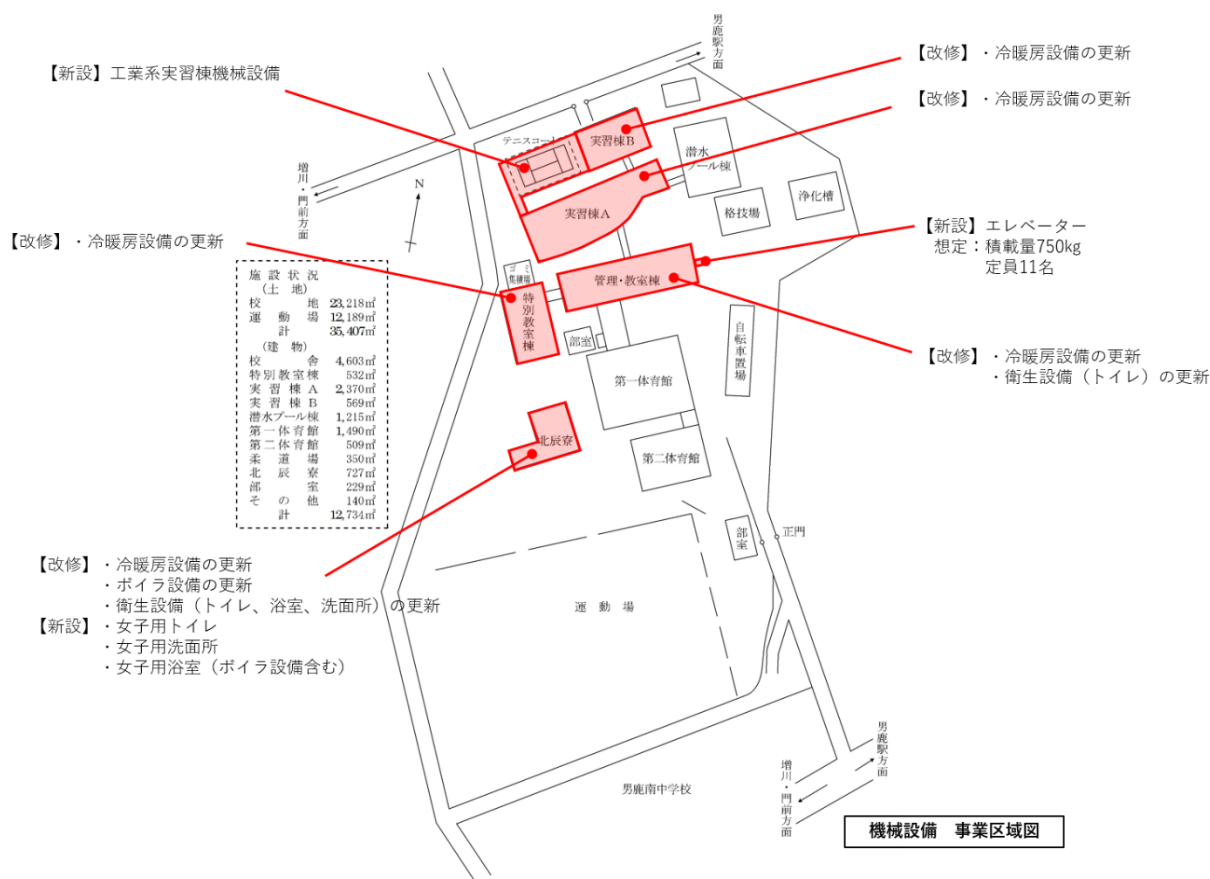
電気設備 管理・教室棟 1階 改修区域図

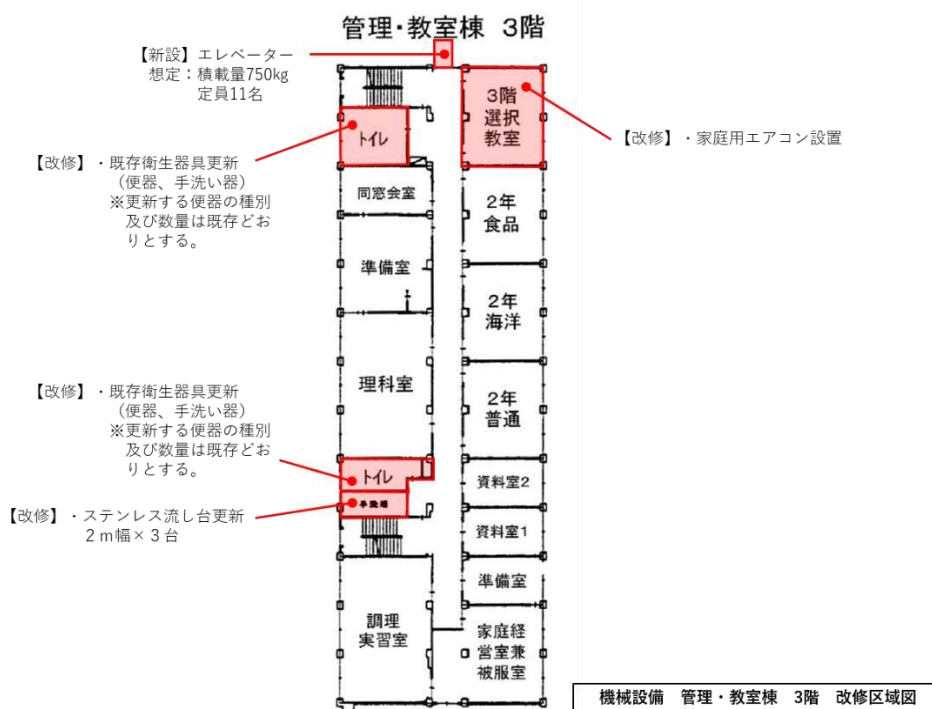
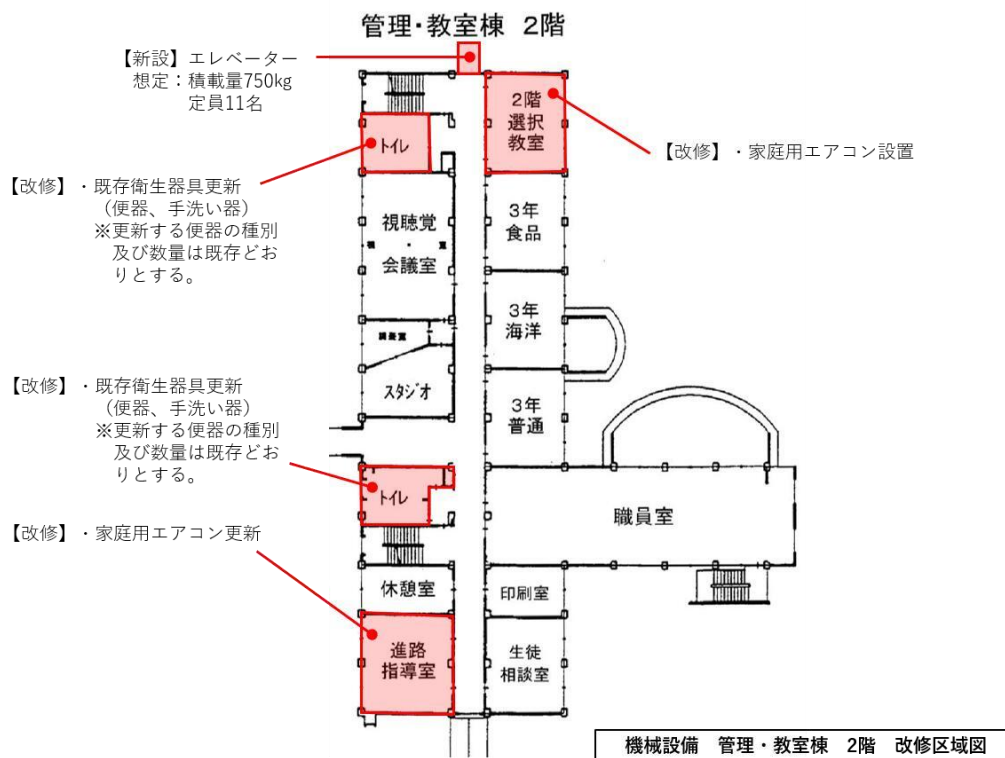


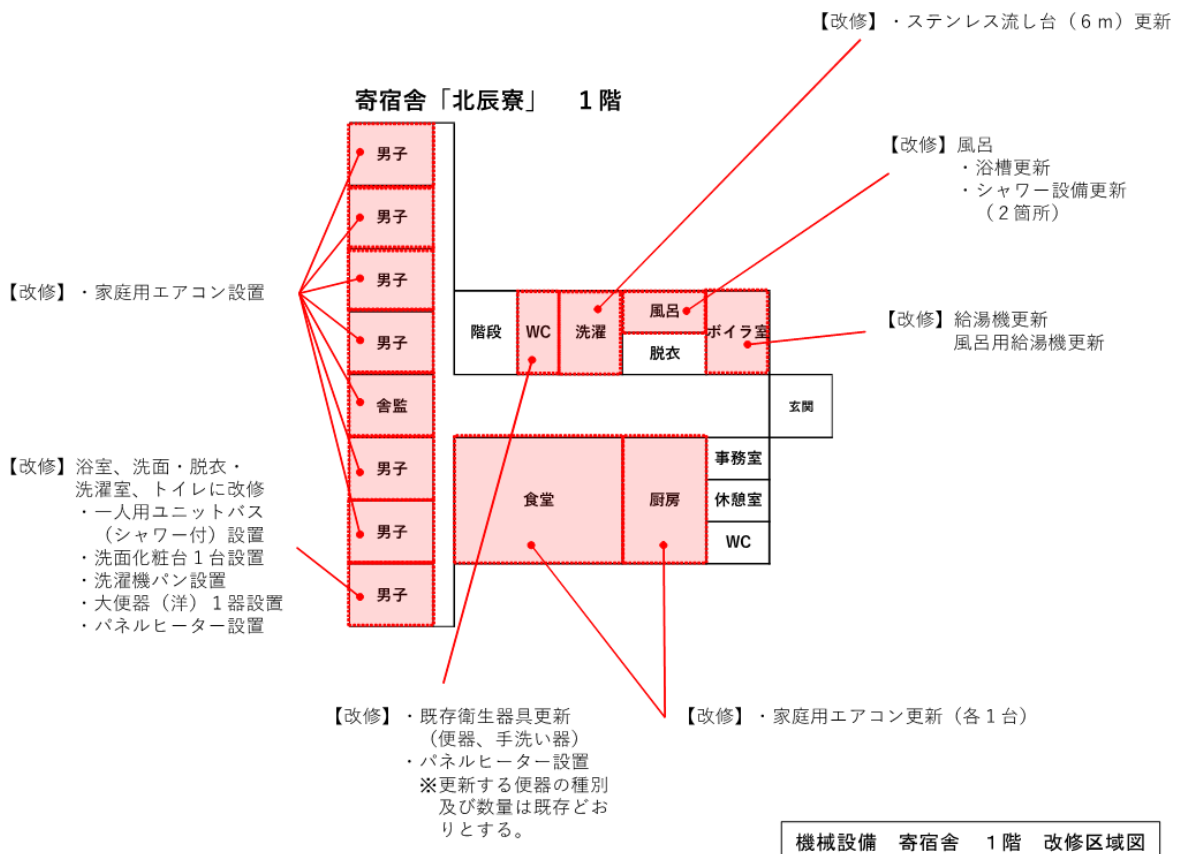
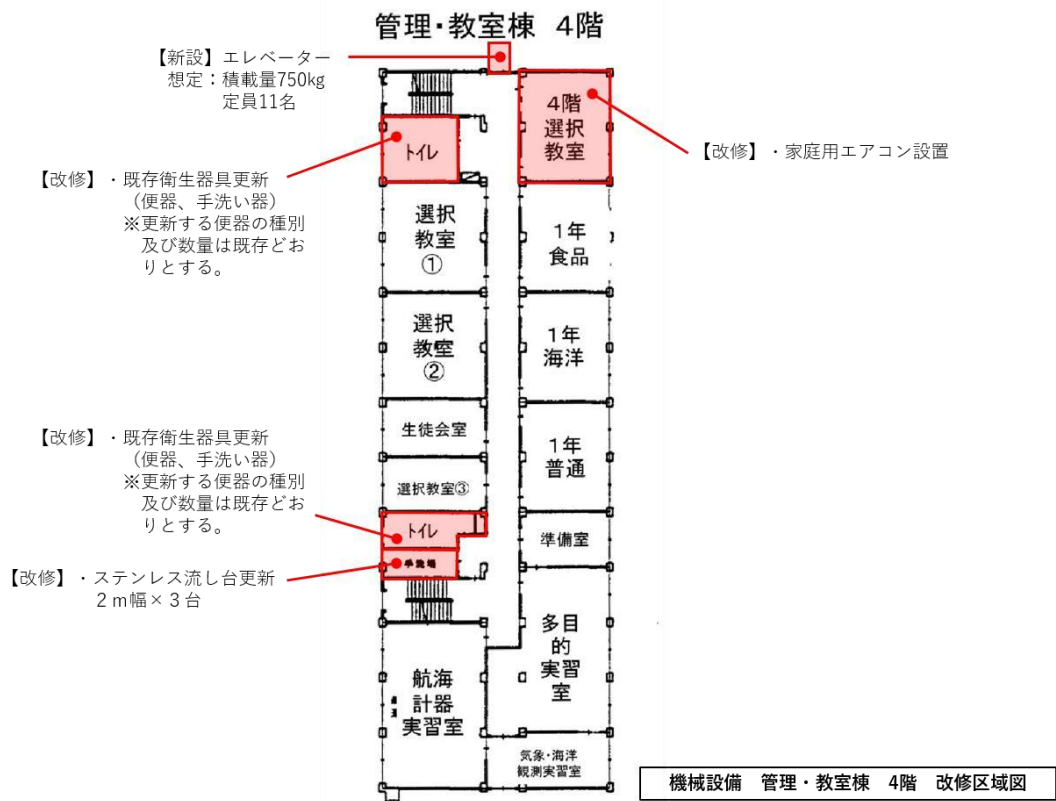
電気設備 管理・教室棟 2階 改修区域図



5.3.3. 機械設備







【改修】男子用宿泊室 3 室に改修
・家庭用エアコン設置
（3 室分）
・ F F 式暖房機設置
（3 室分）

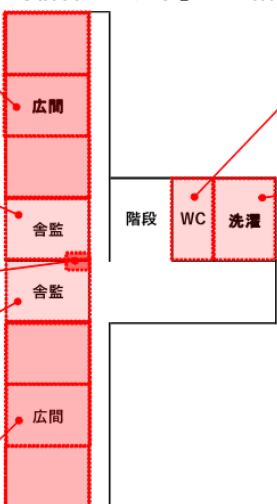
【改修】男子用宿泊室に改修
・家庭用エアコン設置
・ F F 式暖房機設置

【改修】・舎監室内扉を撤去し
壁に改修

【改修】男子用宿泊室に改修
・家庭用エアコン設置
・ F F 式暖房機設置

【改修】男子用宿泊室 3 室に改修
・家庭用エアコン設置
（3 室分）
・ F F 式暖房機設置
（3 室分）

寄宿舎「北辰寮」 2 階

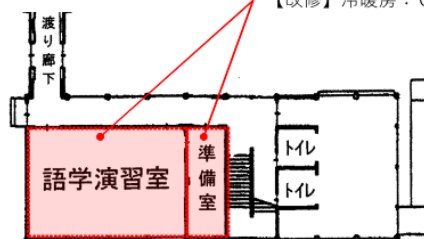


【改修】・既存衛生器具更新
（便器、手洗い器）
・ パネルヒーター設置
※更新する便器の種別
及び数量は既存どお
りとする。

【改修】浴室、洗面・脱衣・洗濯室に改修
・ 出入口扉設置
・ 一人用ユニットバス（シャワー付）設置
・ 洗面化粧台設置
・ 洗濯機パン設置
・ パネルヒーター設置

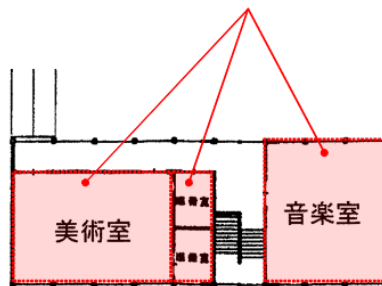
機械設備 寄宿舎 2 階 改修区域図

【改修】冷暖房：GHP エアコン更新



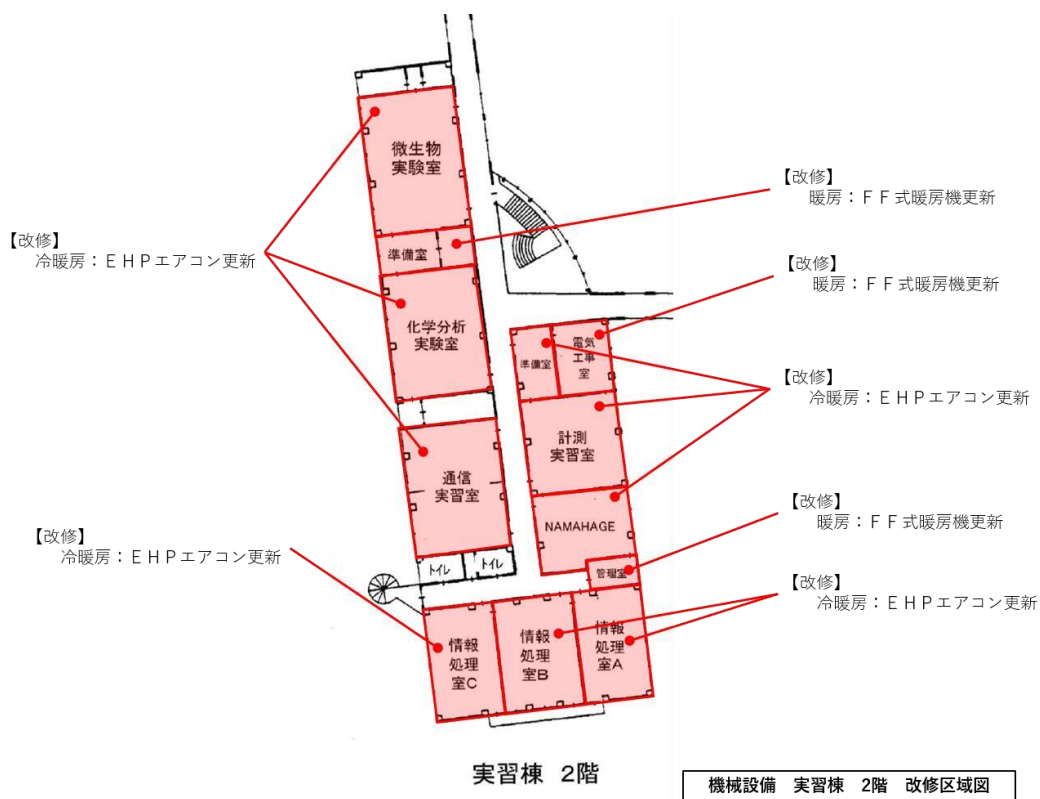
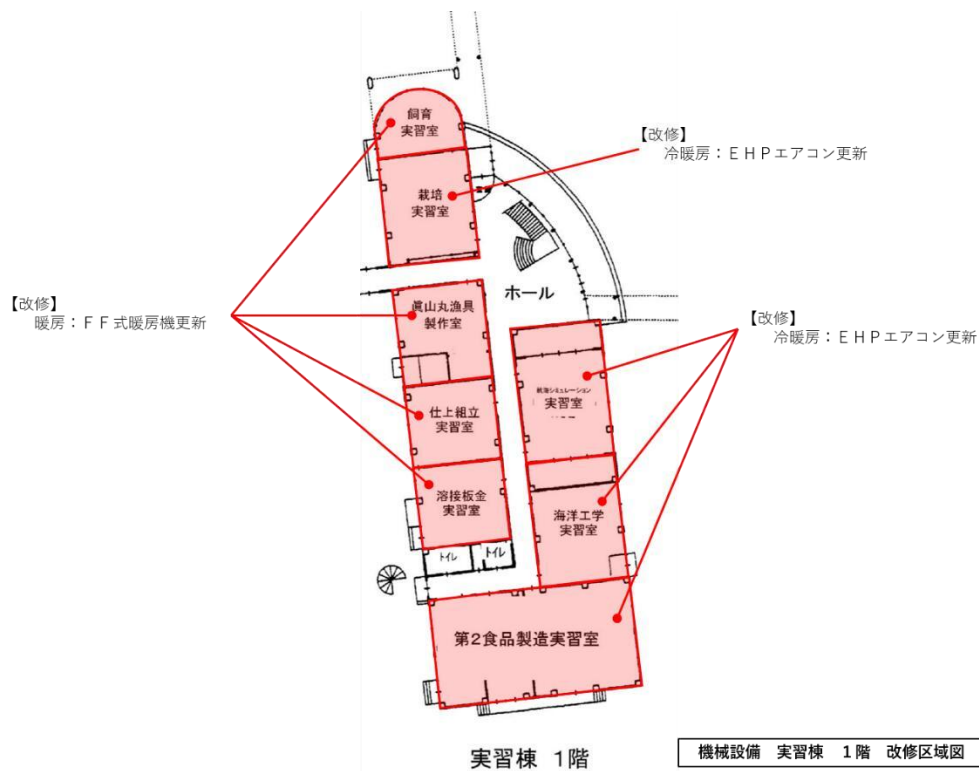
特別教室棟 1 階

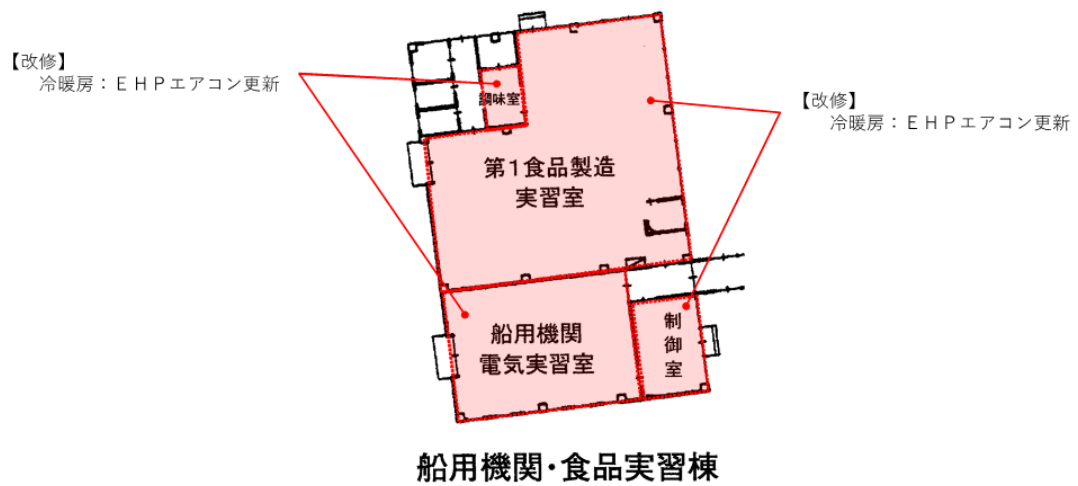
【改修】冷暖房：GHP エアコン更新



特別教室棟 2 階

機械設備 特別教室棟 改修区域図





機械設備 船用機関・食品実習棟 改修区域図

5.4. 生徒数

本事業における整備内容の参考として、現状の学科別生徒数及び新たに設ける男鹿地区統合校（仮称）において予定する学科構成及び学科別生徒数を以下に示す。

表 10 男鹿海洋高等学校 学科別生徒数

学科	1 年			2 年			3 年			科別生徒数		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
普通科				4	2	6	6	5	11	10	7	17
海洋科	13	4	17	10	2	12	22	2	24	45	8	53
食品科学科	6	6	12	4	4	8	3	1	4	13	11	24
合計	19	10	29	18	8	26	31	8	39	68	26	94

（令和 8 年度）

表 11 男鹿工業高等学校 学科別生徒数

学科	1 年			2 年			3 年			科別生徒数		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
機械科	29	4	33	19	5	24	23		23	71	9	80
電気電子科	15	3	18	15		15	17	2	19	47	5	52
設備システム科				12	5	17	16	12	28	28	17	45
合計	44	7	51	46	10	56	56	14	70	146	31	177

（令和 8 年度）

表 12 男鹿地区統合校（仮称） 学科構成及び学科別生徒数（予定）

大学科	学科	1 年	2 年	3 年	合計
工業科	機械システム科	70	70	70	210
	電気エネルギー科				
水産科	海洋資源科	70	70	70	210
	食品技術科				
合計		140	140	140	420

※大学科ごとに括り募集する。